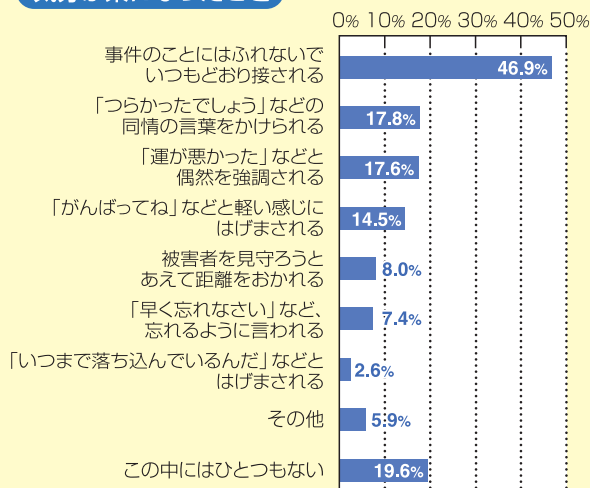


声をかけられた被害者の気持ち ～ホッとする言葉・傷つく言葉～

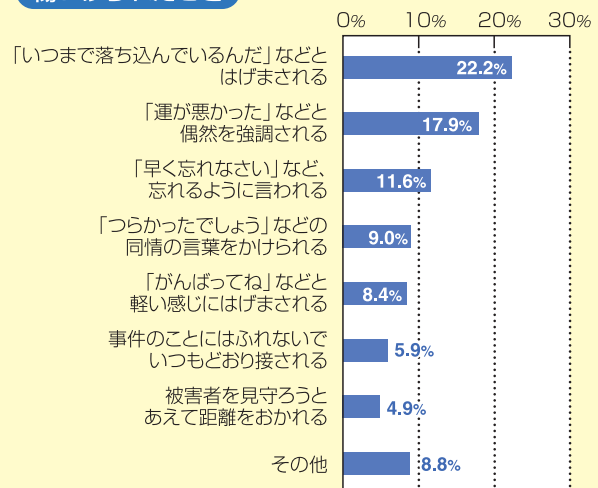
クラスメイトにはげまされたさやかは、傷ついて教室から走り去ってしまいました。さやかのお母さんもお父さんも、近所や職場でのなぐさめやはげましの言葉に傷ついたり怒ったりしていました。

犯罪の被害にあった人はどんな言葉にほっとしたり、傷ついたりしているのでしょうか。次のアンケート調査の結果を見てみましょう。犯罪の被害にあった人に、気分が楽になったこと、傷つけられたことを聞きました。

気分が楽になったこと



傷つけられたこと



「気分が楽になったこと」は、2人に1人が、事件のことにはふれなくていつもどおり接してもらうことだと答えています。反対に「『いつまで落ちこんでいるんだ』などとほげまされる」ことは、傷ついたと感じる人が多いようです。まわりの人がほげますつもりで言った言葉でも、被害にあって苦しんでいる人はさらにつらい気持ちになることがあります。この調査の結果とみなさんの「言ってほしいことや、してほしいこと」と「言ってほしくないことや、してほしくないこと」とも比べてみましょう。また、まわりの人の考えと自分の考えで、ちがうことはありましたか。

さらにくわしく結果をみると、「『つらかったでしょう』などの同情の言葉をかけられる」「『運が悪かった』などと偶然を強調される」は、どちらも約5人に1人が気分が楽になったと答えている一方で、同じ言葉で同程度の人が傷つけられたと答えています。

「犯罪被害者」としても「傷つけられる言葉」や「気分が楽になる言葉」は人によって少しずつ違うようです。しかし、多くの被害者は犯罪被害にあったことでそれまでの生活が大きく変わってしまう経験をしているのです。

それでは一体、「犯罪被害」とはどんなことなのでしょう。

